



九州ゴルフ 100 年祭

平成 25 年度 (第 43 回) 九州アマチュア選手権競技

競技報告 (2013/5/28-31)

写真と記事 : GUK

通算イーブンパーの 288

高校生の和田章太郎 (筑紫ヶ丘) が初優勝

競技は 31 日、福岡県宗像市の玄海ゴルフクラブ (7021 ㊦、パー72) で最終決勝ラウンドが行われ、福岡第一高 3 年、和田章太郎 (筑紫ヶ丘) が通算イーブンパー、288 で初優勝した。高校生の優勝は 4 年連続。1 打差の 2 位は東海大九州 3 年、上嶋誠人 (宮崎大淀)。さらに 1 打差の 3 位に、昨年の日本アマ準優勝で JGA ナショナルチームメンバー、沖縄・本部高 3 年、比嘉一貴 (パブリック協会)。

和田は初日 3 オーバーの 75 で 10 位タイスタートだったが、2 日目 8 位タイ、3 日目 2 位と順位を上げ、首位の比嘉に 1 打差で迎えた最終日だった。和田は 3 バーディー、2 ボギーの 71 で回り、4 バーディー、4 ボギー、1 ダブルボギーの 74 とした比嘉に逆転優勝。この日 70 で回った上嶋が前日の 3 位から 2 位に上昇した。もう 1 人のナショナルチームメンバーの専修大 3 年、小浦和也 (宮崎国際空港) は 7 オーバーで 4 位だった。



ジュニア、大学勢の戦い制す

大会は 28 日から 4 日間、各県地区での 1、2 次予選を通過した選手ら計 159 人 (欠場 3 人) が参加して開催。36 ホールの予選の結果、74 位タイまでの上位 83 選手が 36 ホールの決勝ラウンドに進出した。

競技はジュニア、大学生が主導権を握り、初日は日大 1 年、尾崎秀平 (宮崎国際) が 2 アンダー、70 で単独首位に立つと、2 日目は 71 で回った立命館大 3 年、山本純也 (長崎) と比嘉が首位並走。3 日目、比嘉が抜け出したものの、最終日は 3 打差内の 3 人による最終組が激しいデッドヒートを繰り返した。

若手中心のなかで、九州ミッドアマ 2 連覇の実績を持つ 41 歳、荒川英二 (福岡雷山) が通算 13 オーバーの 11 位タイと善戦した。

16 人が日本アマ出場権

この大会の結果、上位 18 位までの 18 人 (別枠で出場権を持つナショナルメンバーの 2 人を含む) が第 98 回日本アマチュア選手権競技 (7 月 9 ~ 13 日、埼玉県・東京 GC) へ、上位 29 位までとマッチングスコアカード方式で選ばれた 30 位タイの 3 人

のうちの1人、計30人が6月13日から4日間、長崎県・パサージュ琴海アイランドGCで行われる2013九州オープン選手権競技への出場権を得た。

「狙って勝ち取ったV」和田章太郎



〇…「優勝狙って、優勝できて、ホッとしていますし、感激しています」。九州の男子アマチュア界はここ数年、ジュニア勢が引っ張ってきたといっても過言ではない。今年は、昨年までの主力勢が大学に進学したり、プロ転向などで、日本アマ選手権の実績を持つ比嘉中心の戦いと予想されていた。

展開はその予想通りだったが、どっこい、土壇場で意地を見せたのが同じ高校3年生の和田章太郎だった。難しいピンの位置、速いグリーン。みんなが苦戦する中、優勝争いの中で臆することなく戦い、逆転Vを勝ち取ったのだ。

これまで、連盟主催競技では中3の2010年九州ジュニア12~14歳の部で優勝。高校に入ってから先行する先輩たちの陰で目立ったものはなかった。それが今年に入りハワイ・パールオープンで4位、トヨタカップオープンで3位でベストアマになり、「体力もだが自信

になったのが大きい」と和田。

このあとは、2度目になる日本アマだが、「同じ3年生だし、比嘉君に負けられないように」といい、九州のアマナンバーワンとして狙っていくつもりだ。(Kiku)

2位の上畠 もちろんV争いの緊張はあったけど、最終組で最高に楽しいゴルフができた。気持ちの余裕があったことが好成績になったと思う。僕の持ち味は、怖いもの知らずのドライバーの満振りです。

3位の比嘉 目標は日本アマだったし、この試合は調整不足。和田君は決めるとこは決め、チャンスはものにしていた。一緒に回れて僕も粘ったんだけど…。

5位の山本純也 最終18番で下15mから4パットしてダブルボギーとしてしまった。試合では記憶にない。3日目の78がもったいなかった。悔いが残ります。